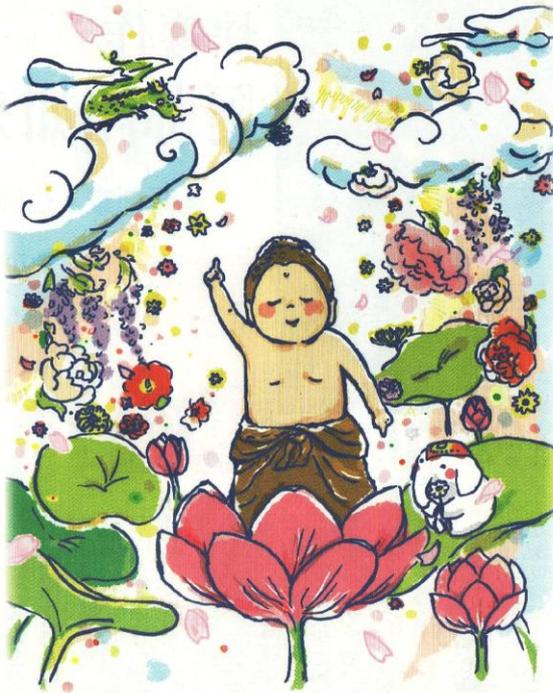


お釈迦さまのお誕生日
花まつり
4月8日

暖かい日射しと心地よい風——待ちに待った春がやってきました。この時期、私たち仏教徒にとって大切な行事の一つ、「花まつり（灌仏会）」があります。花まつりとは、仏教を開かれたお釈迦さまのお誕生日（4月8日）をお祝いする行事のこと。今回はこの花まつりに込められた意味を紹介しましょう。



イラスト・きりたにかほり

「花まつり」は、宗派に関係なく行われる仏教行事です。

お寺の保育園や幼稚園に通われた方であれば、花々に彩られた花御堂の中にいらっしゃる小さなお釈迦さまのお像に甘茶をかけた、という記憶があるかもしれません。この「甘茶をかける」という風習は、お釈迦さまがシヤカ族の王子として誕生された際のエピソードに由来します。では、お釈迦さまの誕生についてお話ししましょう。

お釈迦さまの誕生

今から約2500年前、ヒマラヤ山脈の麓にシヤカ族という部族が住んでいました。部族の王の名前はスツドーダナ、その妃をマヤーといいました。

ある日、マヤー夫人は不思議な夢をみました。夢の中で夫人は、天から現れた神さまに抱えられ、空をぐんぐん昇っていきま。そして、気がつく広い草原に降り立っていました。

そこは心地よく、夫人の心を穏やかにさせました。思わず横になり休んでいると、どこからか鼻に白い蓮の花を持った白い象が現れました。夫人がそれをぼんやりと眺めていると、次の瞬間、象が夫人の右脇にスッと入ったのです。

ハツとして夢から覚めた夫人は、身体の異変に気がつきました。そう、新しい命が宿っていたのです。このことを聞いたスツドーダナ王は大変喜びました。また、神聖な動物とされる

象が夢に現れたということも、その喜びを大きくさせました。その日から、二人にとって世の中は輝きと希望に満ち溢れ、生まれくる子のことを思えば、穏やかな気持ちになれたのです。月日は流れ、出産をひかえた里帰りの途中、夫人はルンビニという庭園を散歩していました。そこは色とりどりの花が咲きほこり、鳥たちはやさしい声で歌っていました。美しい景色を眺めながら、夫人は間もなくその胸に抱く我が子のことと考え、幸福な一時を過ごしていたことでしょう。

夫人はふと立ち止まり、櫛に咲く花をとろうと右手をあげました。すると突然、右の脇が光り輝きだし、大勢の天女が舞い降りてきたのです。そして、次の瞬間、右脇から男の子が産声をあげました。

これがお釈迦さまの誕生です。この時、お釈迦さまの頭上には、龍によって清らかな水（甘露水）が灌がれ、その誕生を祝福したとされています。こうした故事に習い、花まつりではお釈迦さまのお像に甘露水に見立てた甘茶をかけ、その誕生をお祝いするのです。

天上天下唯我独尊の本当の意味

「天上天下唯我独尊」これは、生まれたばかりのお釈迦さまが7歩歩き、右手で天を、左手で地面を指さしながら、おっしゃったとされる言葉です。

「この世界で私（我）より尊いものはいない」。文字だけみると、そう読み解けます。いくらお釈迦さまとはいえ、少し傲慢な感じがします。しかし、その意味は全く異なるのです。

お釈迦さまの言う「私」とは、この世に存在するすべての「私」——つまり世界中の「私たち一人ひとり」の「私」なのです。お釈迦さまはこのエピソードを通して、この世に生を享けた、すべてのものの「いのちの尊さ」と「怒りみ合うことの大切さ」を私たちに教えてくださっているのです。

コラム 甘茶ってどうして甘いの？

花まつりに欠かせないものといえば甘茶。口に含んだ瞬間、パアッと広がる甘い味。その甘さに「砂糖が入っているのでは？」と思われる方も少なくありません。しかしながらこの甘茶、砂糖は一切入っていません。では、そもそも甘茶とは？——その正体は、なんとアジサイの仲間。しかも名もそのままの「アマチャ」という植物です。

このアマチャの葉を蒸し、乾燥させることによって甘味成分が強くなること。その甘さは砂糖の主成分であるショ糖の何百倍とも言われています。

その強い甘さから、砂糖が普及するまで甘味料として使われていました。また、現代でも糖尿病の方など、砂糖を控える必要のある方に代替食品として愛飲されているそうです。

今年のお釈迦さまの誕生は、いつの世にあっても奇跡的で、祝福すべきものです。スツドーダナ王とマヤー夫人もその「いのち」の奇跡に感謝し、我が子の誕生を心から喜びました。花まつりはお釈迦さまのお誕生日であるとともに、私たち一人ひとりに、その存在と「いのちの尊さ」を再認識させてくれる特別な日なのです。

すべての「いのち」の誕生は、いつの世にあっても奇跡的で、祝福すべきものです。スツドーダナ王とマヤー夫人もその「いのち」の奇跡に感謝し、我が子の誕生を心から喜びました。花まつりはお釈迦さまのお誕生日であるとともに、私たち一人ひとりに、その存在と「いのちの尊さ」を再認識させてくれる特別な日なのです。

このことを今一度噛みしめ、お釈迦さまのお誕生日をお祝いいたしましょう。



アマチャの花

今年のお釈迦さまの誕生は、お寺におまいりするとともに、このヘルシーなお茶をお試ください。

当学園では毎年「成道会（じょうどうえ）」を行い「リズム発表」でお悟りを祝っています。

園児にはみんなが毎日楽しく過ごすにはどうしたらいいですか？と質問。

「仲良くするう」と口をそろえて答えが返ってきました。

ではもうひとつ質問。

園長：「幼稚園にブランコはいくつありますか？」

園児：「3つ」

園長：「ではブランコに乗りたい時どうしますか？」

園児：「・・・」

お友達をぶって、順番を抜かしブランコに乗る子は強い子ではありません。「僕はいいよ」「小さい子からどうぞ」とお友達に譲って上げられる子が「強い人」です。と話しました。

自分より小さい人、弱い人、困っている人に「どうしたの？」

「大丈夫？」と優しい言葉をかけられる人。

幼稚園にいるときは園での約束、家ではお父様、お母様との約束をしっかり守る。みんな仲良くする。そうすれば、みんなが毎日楽しく過ごせます。「みんなはできますね」本堂にいた園児はみんな

「はい」と大きな声で答えてくれました。



津久井浜学園 余郷 有聡

※ この記事は 園長のブログ「TEAM まる津」にも記載されています。みんなを元気にするために、毎日更新頑張っています。一度アクセスして「見て！」

